

島根県立石見美術館

コレクション展「粹—石見根付を愉しむ」の開催について

島根県立石見美術館では、コレクション展「粹—石見根付を愉しむ」を下記のとおり開催いたします。

記

1. 会 期 平成 29 年 5 月 31 日 (水) ～8 月 7 日 (月)

休 館 日：毎週火曜日

開館時間：10:00～18:30 (展示室への入場は 18:00 まで)

2. 会 場 島根県立石見美術館 展示室 B (グラントワ内)

3. 展覧会概要及び見どころ

今から約 400 年前、江戸時代の人々は、普段身につける、ちょっとした小物にもお洒落心を発揮し、「粹」な遊び心を競い合いました。なかでも根付は、掌におさまるほどの小さなサイズで、ちらりと見えて持ち主のセンスの良さをうかがわせるには最適でした。印籠や巾着などの「提げ物」を着物の帯に提げる時、落ちないようにその紐の先に付けて帯に挟んだこの留め具は、文化、文政時代の煙草入の流行とともに、実用品としてだけでなく、精巧な彫刻を施した芸術性の高い工芸品へと発展します。その題材も非常に多彩で、産地や流派によって様々な特徴がありました。そのなかで現在の島根県江津市を拠点とした、清水巖（初代富春）とその一門によって作られた石見根付は、蜘蛛や蟬、亀など自然の生物をその生態を生き写すかのごとく精緻に彫られ、「石見もの」「石見派」と称されて人気を博しました。

本展では当館所蔵品のほかに、江津市の石見根付研究家、故・七田眞氏のコレクションの一部を紹介し、題材ごとの意味と表現に着目します。江戸の昔に想いを馳せながら根付の世界をお楽しみ下さい。(展示点数 約 25 点)



白龍《蓮葉に蛙》19 世紀 江津市 (七田眞コレクション)



富永《猪牙に蜘蛛》19 世紀 当館所蔵